**23　慶田窯**

**《白薩摩鳳凰文浮彫花瓶》**　一点

昭和三年（一九二八）

陶磁

高五一・六　径五一・五

昭和三年（一九二八）の大礼に際して鹿児島市より献上された、太い首がつき胴部が大きく張り出した白薩摩の花瓶。釉薬によりやや黄色みがかった器表には、首の付け根と肩と胴下部に三本の金彩の圏線がある以外は、首、肩、胴、裾の各部に彫刻による文様帯がほどこされている。首には宝相華唐草文、肩と裾には向かい合わさって如意頭形を形成する葉文、胴には連珠文を上下に配して七宝繋の上に瑞雲と四羽の鳳凰を浮彫であらわしている。なかでも七宝繋の浮彫は文様となる線だけを残して彫り下げていく手法で、この浮彫が破綻無く胴を一周しており、当時の薩摩焼陶工の彫刻技術の高さがうかがわれる。高台内には「サツマケイダ（花押）」の印銘がある。

慶田窯は、明治四年（一八七一）に設立された田之浦陶器会社が倒産した後、個人所有となったものを同二十五年に慶田茂平が取得、同二十七年に茂平の甥である慶田政太郎が引継いだ陶窯である。外国輸出のために粗製濫造に陥っていた薩摩焼の品質改良に努め、明治後半から大正期にかけて沈壽官窯とともに鹿児島を代表する製陶所となった。本作品は、政太郎の後を継いだ慶田泰輔が経営する時代に製作された。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

**大礼 ― 慶祝のかたち**
三の丸尚蔵館展覧会図録No.85

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　公益財団法人　菊葉文化協会
令和元年九月二十一日発行
©2019, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan